

《担当者名》○下村敦司 shimo@hoku-iryo-u.ac.jp 太田亨 才川悦子 田村至 榊原健一 鈴木瑞恵
永見慎輔 福田真二 飯泉智子 葛西聡子 小林健史 前田秀彦 柳田早織 若松千裕
辻村礼央奈

【概 要】

言語聴覚療法の理論と知識について、学士取得に必要な水準レベル達成を目指す。既有的知識を整理し、言語聴覚療法およびリハビリテーションに関する理論と知識の偏りを補完する。

【学修目標】

<一般目標>

実践の場で適切な言語聴覚療法を判断・使用するために、学士取得に必要な知識や技術および理論を偏りなく正確に説明できる。

<行動目標>

1. 発声発語障害に関わる言語聴覚療法の基礎および臨床知識と理論を的確に説明できる。
2. 言語発達障害に関わる言語聴覚療法の基礎および臨床知識と理論を的確に説明できる。
3. 摂食嚥下障害障害に関わる言語聴覚療法の基礎および臨床知識と理論を的確に説明できる。
4. 失語・高次脳機能障害に関わる言語聴覚療法の基礎および臨床知識と理論を的確に説明できる。
5. 聴覚障害に関わる言語聴覚療法の基礎および臨床知識と理論を的確に説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	言語聴覚療法における運動学	運動障害を理解するために、動作の発現と制御過程の基礎を整理し、摂食嚥下、発声・発語に関わる正常動作の仕組みを力学および神経生理学的視点から確認する。	下村敦司
3) 4	摂食嚥下障害学	摂食嚥下リハビリテーションに関連する基礎知識を整理し、確認する。	永見慎輔 鈴木瑞恵
5) 6	病理学・小児科学・内科学	病理学・小児科学・内科学の基礎知識と臨床例を確認する	太田亨
7) 8	音声・聴覚医学	耳科学（聴覚・前庭）の生理・解剖の基礎知識を整理し、検査・病態・治療との関連を確認する。 発声発語と咽喉頭疾患について整理する。	才川悦子
9) 10	高次脳機能障害学	失認、失行、記憶障害、前頭葉機能障害、認知症など多様な高次脳機能障害について知識を整理し、確認する。	田村至
11) 12	神経学	脳神経疾患を理解するために、中枢神経系および末梢神経系の構造と機能を整理する。さらに脳画像の見方を確認する。	下村敦司 鈴木瑞恵
13) 14	心理学	認知・学習心理、心理測定法、臨床心理学、生涯発達心理学について、言語聴覚士として必要な知識をまとめ、確認する。	永見慎輔
15) 16	失語症	失語症の症状、診断・評価、訓練、リハビリテーションに係る知識を整理し、確認する。	若松千裕
17) 18	音声学・音響学	音声学および音響学（聴覚心理学含む）の基本事項を整理し、日本語音声の特徴、聴知覚の原理と現象、および、音声生成・知覚のメカニズム（運動、音響現象、知覚）について、言語聴覚士に必要な知識を理解し、説明できるようにする。	榊原健一

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
19) 20	言語学・言語発達学	ことばの仕組みについての基礎的知識をまとめ、確認する。 言語発達過程においてみられる諸現象を時系列に沿って整理し、確認する。	福田真二
21) 22	発声発語障害学 摂食嚥下障害学	運動性構音障害、器質性構音障害、摂食嚥下障害のリハビリテーションに係る知識を整理し、確認する。	飯泉智子
23) 24	言語発達障害学	定型言語発達の過程に係る知識を整理し、それを阻害する要因となる言語発達障害の評価法、そこから導かれる支援法を確認する。	小林健史 辻村礼央奈
25) 26	成人聴覚障害学	成人聴覚障害の概要、自覚的・他覚的聴覚評価法、聴覚補償機器、リハビリテーションに係る知識を整理し、確認する。	前田秀彦
27) 28	発声発語障害学	音声障害、機能性構音障害、吃音を生じる要因を整理し、各障害に応じた評価・治療法について確認する。	柳田早織
29) 30	小児聴覚障害学	乳幼児聴力検査の特性や聴覚障害児の言語獲得過程における課題を整理し、各発達段階に応じた適切な評価、療育について確認する。	葛西聡子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

小テストおよび定期試験 100%

試験実施後、問題に対する疑義に対しては、解説および模範解答を開示する。

【教科書】

広瀬肇 監 「言語聴覚士テキスト 第4版」 医歯薬出版 2025年

【参考書】

医療研修推進財団 監 「言語聴覚士国家試験出題基準令和5年4月版」 医歯薬出版 2023年

言語聴覚士国家試験対策委員会 編 「2026年版 言語聴覚士国家試験 過去問題3年間の解答と解説」 大揚社 2025年（出版予定）

上月正博 監 「言語聴覚士 国家試験マスターノート」 メジカルビュー社 2023年

その他、各領域の専門の教員が適宜、紹介する。

【備考】

1. 講義は変則日程で開講される。相当数の補講の実施が予定されている。
2. 開講日時は掲示等で発表される。常に掲示を確認して、開講日時の変更に留意すること。
3. 授業に関わる連絡、授業資料の配信、学習課題の提示
 - ・授業に関わる連絡はmanabaさらにi-Portalを利用する。
 - ・授業資料の配信はmanabaまたはGoogle Classroomを利用する。
 - ・学習課題の提示はmanabaまたはGoogle Classroomを利用する。
4. 授業に関する意見交換
 - ・manabaまたはGoogle Classroomを利用する。
5. 授業の理解度把握
 - ・manabaのアンケート機能を利用する。

【学修の準備】

各領域の専門の教員がオムニバス形式で講義をするので、それぞれの担当教員の指示に従って予習（80分）と復習（80分）を行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

田村至、鈴木瑞恵、永見慎輔、飯泉智子、葛西聡子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、若松千裕、辻村礼央奈（言語聴覚士）
太田亨、才川悦子（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

田村至、鈴木瑞恵、永見慎輔、飯泉智子、葛西聡子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、若松千裕、辻村礼央奈：医療機関での言語聴覚士としての臨床経験を活かし、言語聴覚障害学の各領域に関する知見や各障害の評価・リハビリテーションについて講義を行う。
太田亨、才川悦子：医療機関での実務経験とその知識を活かし、講義を行う。